

【専門教育科目/看護の基本】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論Ⅱ		必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
溝口 孝美他	402	t.mizoguchi	火曜日 12:30~13:00		
授業の目的・概要	看護援助方法論Ⅱでは、看護の機能する医療場における診察・検査及び診断・治療に伴う援助について、援助を実施する上に必要な理論・知識・技術をもとに、看護師の役割と、診察・検査及び診断・治療に伴う看護援助の基礎的援助技術を看護の視点から対象の病の回復と治療効果について理解することを目的とする。診察・検査及び診断・治療について既習の知識をもとに確認した上で、これらの内容に伴う基礎的看護援助について関連づけながら講義する。具体的な援助方法については、既習の知識の裏づけにもとづきながら演習での主体的な学びを通して修得する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	看護援助方法論Ⅱで学ぶ診察・検査及び診断・治療に伴う援助は、人体構造機能学、薬理学、微生物学、疾病治療論等の既習の知識が必要となるため、これらの知識を復習しておくことが望ましい。演習では知識の裏づけにもとづきながら主体的な学びを通して援助技術方法をおこなって欲しい。				
教科書	系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (第18版) /著:有田 清子 他 /医学書院/2021				
参考書	・看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術/監修:佐藤 久美 他/メディックメディア ・演習・実習に役立つ基礎看護技術 (第4版) /編:三上 れつ 他/ヌーヴェルヒロカワ				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	医療場における看護の役割と意義について説明することができる。	HSU(3) (5)、NS(5)			
②	診察・検査及び診断・治療について理解し、これらに伴う看護援助について説明すること	NS(4)、(5)			
③	診察・検査及び診断・治療時の安全・安楽を踏まえた基礎的看護援助技術を実施すること	NS(4)、(5)			
④	個別性を踏まえた援助技術の大切さについて述べるができる。	NS(4)			
⑤	援助技術の工夫や演習に取り組む姿勢を示すことができる。	NS(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	診察・検査及び診断・治療時の基礎的看護援助技術の意義・重要性について学ぶ。	講義 演習 グループワーク	看護師の役割と意義について、各治療についてまとめる。	1	
2	呼吸・循環を整える技術について (呼吸を楽にする姿勢・呼吸法・気道分泌物排泄の援助) 学ぶ。	講義 演習	人間にとって呼吸・循環の意義について課題をもとにまとめる。	1	
3	呼吸・循環を整える技術について (酸素吸入・吸入・吸引) 学ぶ。	演習	呼吸・循環器系の知識を教科書等で調べ、ノートにまとめておく。	1	
4	呼吸・循環を整える技術について (酸素吸入・吸入・吸引) 学ぶ。	演習	呼吸・循環器系の知識を教科書等で調べ、ノートにまとめておく。	1	
5	排尿・排便に伴う援助技術 (導尿・留置カテーテル、排便を促す援助技術) を学ぶ。	講義 演習 グループワーク	排泄について教科書等で調べノートにまとめておく。	1	
6	排尿・排便に伴う援助技術 (導尿・洗腸) を学ぶ。	演習	排泄困難時の処置・及び援助について課題をもとにまとめる。	1	
7	排尿に伴う援助技術 導尿 (無菌操作、一時的・持続的導尿) について学ぶ。	演習	無菌操作、導尿について教科書等で調べノートにまとめる。	1	
8	症状・生体機能管理技術 検査と看護について学ぶ。	講義 演習 グループワーク	診察・診断・検査について、疾患との関係と結びつけまとめる。	1	
9	検査と看護に関する技術 血液検査の方法について学ぶ (採血方法等)。	演習	血液の正常値及び検査の方法について課題をもとにまとめる。	1	
10	検査と看護に関する技術 血液検査の方法について採血方法等) 学ぶ。	演習	血液の正常値及び検査の方法について課題をもとにまとめる。	1	
11	与薬の意義・管理について、与薬の技術 (経口・口腔内・直腸内等) について学ぶ。	講義 演習 グループワーク	薬物療法、治療及び処置の方法について課題をもとにまとめる。	1	
12	与薬の技術 (皮下皮内筋肉内注射) について学ぶ。	演習	皮下注射、皮内注射、筋肉内注射について課題をもとにまとめる。	1	
13	与薬の技術 (皮下注射、筋肉内注射) について学ぶ	演習	筋肉内注射の方法、注射部位等課題をもとにについてまとめる。	1	
14	与薬の技術 注射: 静脈内注射方法、点滴静脈内注射、輸血の管理技術について学ぶ。	演習	静脈注射、点滴静脈内注射、輸血について課題をもとにまとめる。	1	

【専門教育科目/看護の基本】

15	創傷管理、救急、止血に関連した技術について学ぶ。	講義 演習	各処置、救急処置に関連した技術について課題をもとにまとめる			1	
試	ペーパー試験 レポート 技術確認試験						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	20	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	20	60
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	5	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	5	0	0	5	10
	問題を発見・解決する力	0	5	0	0	0	5
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	体験を通し学んだ援助技術から診療を必要とする看護の対象や看護師の役割についての知識、考えたことを評価する。				知識の修得状況を振り返り、事前・事後課題、体験後の課題の内容を通して評価する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①	✓	授業を通し学んだ援助技術から診療を必要とする看護の対象や看護師の役割について考えたことを評価する。				不足部分を考えられるように授業の内容を想起させ導き、次の学習に繋げる。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	授業で実施した援助技術を、技術確認試験を通して知識、技術力を評価する。(実技試験)				不合格者に対して、個別指導をおこなって修得させる
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	坂本文子 窪川理英						
教 員 の 実 務 経 験	担当教員は病院の看護師として 10 年の臨床経験 大学教員として 16 年の経験						
実践的授業の内容	教員の経験を通して事例を取り上げ、教科書と各参考文献を活用する。						
そ の 他	今後のコロナウイルス感染症の発生状況など社会情勢によって再度シラパスの変更があります。						